

# 平成28年度 上越市生活科部 活動報告

部長 丸山 睦子

## 1 研修主題

生活科・授業づくりのプロセスとアクティブ・ラーニング

## 2 主題設定の理由

新学習指導要領では、資質・能力の育成とアクティブ・ラーニングがキーワードになる。

生活科では、授業そのものが学びに向かうアクティブ・ラーニングの手法を取り入れている。授業者は授業づくりの過程にアクティブ・ラーニングを取り入れ、授業をいかにマネジメントしていくかによって、質の高い生活科授業が実践できると考える。

したがって、今年度は新学習指導要領の趣旨を具現化するため、本主題のもと部会研修を進めることとした。

## 3 研修の実際

### (1) 8月27日 新潟県生活科・総合的学習研究会 概要

- ① 主題「上越発 生活科・総合のダイナミックな単元開発とカリキュラム・マネジメント」
- ② 主題設定の趣旨

子どもたちが主体的、協働的に新たな価値を生み出していくために、各学校が社会に開かれた教育課程を編成・実施・評価・改善する「カリキュラム・マネジメントの充実」が求められている。今大会では、上越地域で実践されている生活科・総合の単元開発とカリキュラム・マネジメントの実際をもとに、次期学習指導要領で重視される方向性を確認し、実践へのポイントを明らかにする。

### ③ 実践発表

上越市教育委員会

教科横断的な取組を促進する「視覚的カリキュラム表」の活用

上越市立飯小学校

体験と言語活動を関連させて「豊かな表現力」を育む

～2年生「ニコニコえがおのなかよし畑」クローバー4の実践から～

糸魚川市立中能生小学校

「糸魚川ジオパーク学習」を組み込んだ教育課程の編成とその実際

愛知教育大学生生活科教育講座

生活科・総合の学び～不変の理念と改革の道のり～

### ④ 記念講演

文部科学省初等中等教育局視学官

学習指導要領改訂の方向性～深い学びを中心に～

### ⑤ 実践発表から 上越市立飯小学校

体験と言語活動を関連させて「豊かな表現力」を育む

～2年生「ニコニコえがおのなかよし畑」クローバー4の実践から～

・野菜が「自分のもの」になったときに、これまでよりも野菜に近付き、細部まで観察する姿が見ら

れた。野菜との関係性が、表現につながってくるということ、児童の実態に合った教材を用意すること、そして国語科の学習と関連させたからといって表現力が向上するわけではないことを児童の姿から学んだ。

- ・心が動く体験をして、その感動が伝わる喜びを実感する、そういった感動の連続が、「伝えたい」という気持ちや表現力を育てる。
- ・体験活動と表現活動とが繰り返されることで児童は学びの質を高めるとともに、自分自身のよさや可能性に気付いていく。そのためにも、生活科を中核にし、年間を通して様々な教科と関連させたカリキュラムづくりをしていくことが大切である。

## (2) 一斉研修概要

### ① 講話の要旨

講師 上越市立A小学校

テーマ「生活科・授業づくりのプロセスとアクティブ・ラーニング」

次期学習指導要領では、資質・能力の育成とアクティブ・ラーニングがキーワードになる。アクティブ・ラーニングでは、主体的・対話的で深い学びを実現するために、学びの過程において、子どもたちが、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせることが大切である。

生活科では、主体的・対話的で深い学びを実現するために、次の4点をふまえる必要がある。

- ・単元での「深い学びの姿」をイメージする。
- ・生活科の特質に応じた見方・考え方を働かせる活動や場を設定する。
- ・体験を言葉に表す。
- ・単元の中に、振り返りの表現活動を位置づける。

一つ目の「深い学びの姿」を飼育活動を例に考えると、「動物に寄り添い、動物の動きや生活に自分を合わせる」というイメージができる。二つ目の「見方・考え方を働かせる」では、単元や活動の中に「まねる」「比べる」「繰り返す」ことを位置づけたり、自分の考えや気持ちを書き表すことのできる思考ツールを活用したりすることが効果的である。三つ目の「体験を言葉に表す」では、書くことに関する指導を意図的に行うことが大切である。作文の技術指導を年間指導計画に位置付けたり、毎日書く連絡帳で言語事項に関する指導を継続して行ったりすることで、子ども一人ひとりに書く力をつけていく。四つ目の「振り返りの表現活動」では、絵本の活用が有効である。絵本は、子どもの心情にうったえ、子どもの内なる言葉を引き出しやすい優れた学習材である。特に、絵本の構成要素の一つである言葉の繰り返しに着目することで、1・2年生にはむずかしい自分の振り返りが容易となる。

さらに、生活科の学習を進める上で大切にしたいこととして、次の7点到配慮したい。

- ・環境構成に、教師のねらいや意図を込める。
- ・教室掲示に、学びの軌跡を残す。
- ・子どもから、子どもの学び方を教師が学ぶ。
- ・子どもの感性を引き出す。
- ・子どもの生活の流れを大切にしたい指導を行う。
- ・視覚的な板書を心がける。
- ・生活科を中核としたスタートカリキュラムを工夫する。



### ② すぐに挑戦してみたい生活科シート、絵本づくりなど



### ③ 受講者の感想

- ・アクティブ・ラーニング等、次期学習指導要領について学ぶことができました。全教科において主体的・対話的で深い学びの実現のために授業改善に努めていきたいと思えます。特に生活科において、表現活動で自ら振り返る手法は、とても参考になりました。活動ありきではなく、継続的な学び、深い学びにつながるようイメージをもって進めていきたいです。
- ・教師自身が、具体的に「深い学びの姿」をイメージすることの大切さを改めて実感しました。また、一人一人の子どもをよくみることの大切さを感じました。子どもが何をどう考えているのか、どうしてそのような行動をしているのか、見守り、よくきくことで学びが深まっていくのだと思いました。
- ・先生の子どもたちへの愛を感じました。様々な授業づくりや基礎基本の習得へのヒントはもちろんですが、先生のお人柄にふれ、生活科への心構えが新たになったことが一番の収穫でした。
- ・先生からは、これまでに何度か学ばせていただいているのですが、そのたびに生活科の原点に立ち返る思いです。目の前のことに追われてそのことを忘れてしまいがちなのですが、子どもを温かい目で見つめ、子どもとともに成長していきたいです。カリキュラム作りの難しさを感じています。もっとじっくり時間をかけて練っていかねばと思います。

### 4 研修を終えて

年間2回という限られた研修機会ではあったが、大変よい内容で充実した研修を行うことができた。今日的な生活科授業の研修を、会員全てが学ぶことができたことは大きな成果である。また、いずれの内容も実際の授業をいかにつくりあげていくかという点において、具体的な内容と材料から学ぶことができた。一人一人の会員が生活科授業実践の中軸となり、新学習指導要領の具現化に資する授業マネジメントができるよう、今後も研修を進めたい。